

第5回滋賀県病院協会臨床研修指導医講習会を受講して



草津総合病院 麻酔科部長 福島 弘子

滋賀県病院協会報をご覧の皆さん、臨床研修指導医講習会の受講はお済みですか。私はこれまで「臨床研修指導医の資格なんか持っていないくても研修医の指導は大丈夫！」と思っていました。それが今回受講してみても大変な間違いである気が付きました。

うほど、時間に追われる激しい講習だったので。講習会は6名から7名の班に分かれて座学と実践の組み合わせでした。まず初めの講習だけは「臨床研修制度の意義や関係法令の読み方」の講義。ここまでは普通の講習会の態でした。ところが、次からは「タスクフォース」と呼ばれる講習会世話人の先生方から残り時間を急かされつつ、講習室やグループ作業室にある菓子やドリンク類に手も出せないほどの忙しさに陥っていました。

「防衛機制」をどうと外せるかという講習を、2日間では私自身は合っただけで、少し目を外せるくらい講習を楽しくもできませんでした。最後には「自分の科に入っただけの研修医さん」に育っていったのではないのでしょうか。

「防衛機制」をどうと外せるかという講習を、2日間では私自身は合っただけで、少し目を外せるくらい講習を楽しくもできませんでした。最後には「自分の科に入っただけの研修医さん」に育っていったのではないのでしょうか。

「防衛機制」をどうと外せるかという講習を、2日間では私自身は合っただけで、少し目を外せるくらい講習を楽しくもできませんでした。最後には「自分の科に入っただけの研修医さん」に育っていったのではないのでしょうか。

平成26年度病院協会救急医療研修を実施して

平成26年9月11日(木) 於：長浜赤十字病院

例年は、「重症患者の救命救急」について、各地の先進地施設で研修を実施していましたが、今年度は「医療従事者の蘇生トレーニング」に主眼を置いた研修とされ、その趣旨の研修を従前より実施されている長浜赤十字病院で研修させていただきました。

長浜赤十字病院における救急医療への取り組み

当院は滋賀県北部唯一の救命救急センターです。とはいえ、県北部の医師不足は当院でも例外でなく、救急部門を専属医やスタッフのみで運営することは困難です。特に夜間や休日、医師・看護士も専門以外のスタッフが交替で担当しています。このような状況で救命センターのレベルを維持するためには、病院全体のレベルアップを図る必要があります。



研修は、2日間で合計12回、1日1回、2時間ずつ行いました。参加スタッフには、必ず医師および研修医を含むように調整し、担当部署では獲得目標を決めて事前研修会を行いました。すべての部署で研修を行うのに約2年を要し、現在は2週目

「防衛機制」をどうと外せるかという講習を、2日間では私自身は合っただけで、少し目を外せるくらい講習を楽しくもできませんでした。最後には「自分の科に入っただけの研修医さん」に育っていったのではないのでしょうか。

V. 認知症対策の推進について

滋賀県病院協会理事 周防 正史

全体的に有機的に活用していく上で、さらなるシステム構築(書式の運用、ICTの活用)が重要であり、行政からの積極的な指導や支援を求めた。県としては、例年の病院協会への委託のほか、今年度は、国の補助により大津医療圏でモデル事業に着手する。次年度以降も、これを拡大しながら退院支援のルールを検討したい。びわ湖メディアカルネットやあさがおネットの活用も検討課題との説明があった。

IV. 在宅療養支援病院を推進していくために

滋賀県病院協会理事 周防 正史

平成26年診療報酬改定において、「地域包括ケア病院」が新設された。当該病棟の基準の一つに「在宅療養支援病院の取得」があり、今後当該病棟の届出拡充に伴い、在宅療養支援病院以下「在宅病棟」の届出が増える可能性がある。また、2025年問題に對して在宅医療推進が当面の重点課題だが、在宅病棟の積極的な活動がなければ、在宅療養の円滑な運営は困難である。

(1)カンファレンスの開催について

医師や訪問看護師、ケアマネジャー等と、在宅療養を行う上での課題や問題点を検討する場は既に設けられているが、築と訓練を行うべく予定。県内では当院のような体制で救急医療を行っている病院は、決して少なくないと思われ。当院にとっては救急専属スタッフ集団を採り採用するより、病院全体で高い力を発揮できるようにスタッフ教育を進めることが現実的な対応でした。

(2)入院・入所対応施設の整備

一般病院に入院した場合に、対応する職員の数、特に夜勤者の人数は絶対的に不足する。また一般病棟は、せん妄状態の患者さんに対応し耐えられる構造ではなく、病院内の施設整備など早急な改善が必要だが、個々の病院には限界があり、行政として、各圏域における必要量の把握とともに、必要な介護施設・病院施設の早急な整備と人員配置に対する支援について求めた。

(3)医療機関への支援について

在宅病棟については、24時間対応の窓口(対応者)の設置が義務付けられていることから、その配置者に対する処遇改善を趣旨とした夜間勤務に対する助成(手当としての助成金など)を提起した。県としては、基本的に診療報酬に含まれているものに助成はできないが、研修会等の開催は可能であること、さらに平成29年までに二次医療圏に少なくとも1病院に在宅療養支援病院が実現するよう支援事業も考えているとの説明があった。

(4)5つの協議事項が終了

5つの協議事項が終了後に、県からてんかん患者で公費負担制度受給者が現在約1200人程度で、罹患率から推計される患者数(6千人~1万人)とのギャップがあり実態調査のためのアンケートの依頼があった。最後の挨拶で、長浜赤十字副会長が、滋賀県病院協会は県下58病院すべてが参加しており、他府県では見られない団結がある。県の健康医療福祉部とも協力して難局に対処したいと述べられた。

平成26年10月1日より病院協会内に「滋賀県医療勤務環境改善支援センター」を開設

平成26年6月に成立した改正医療法には、病床機能報告制度の実施や地域医療ビジョンの策定など、今後の病院経営に大いに関わる重要な内容が盛り込まれました。

その一つに、サービス充実の基盤整備を目的とした「医療機関の勤務環境改善マネジメントシステムの導入」があります。医療の高度化・専門化や高齢化社会の進行に伴ってますます増大する医療ニーズ、それを支える医

療従事者の確保は重要な課題であるため、できる限り多くの医療機関等において、PDCAサイクルを活用した計画的な勤務環境改善の取組が実施されるよう求めたものであり、同時に、こうした医療機関の取組を支援するため、都道府県ごとに「医療勤務環境改善支援センター」を設置するとされたところです。

滋賀県では、改正医療法の施行に合わせて10月1日から、「医療勤務環

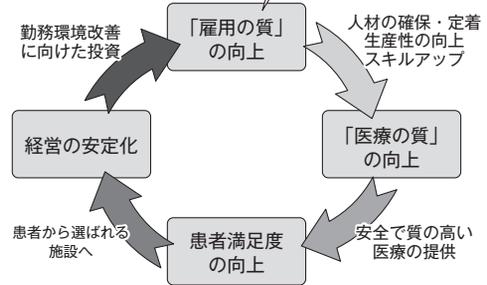
境改善支援センター」を当協会内に開設することとなりました。滋賀県（一部は滋賀労働局）から運営委託されます。

働きやすく、働きがいのある職場づくり、医師や看護師をはじめとする医療スタッフの離職防止や定着促進、医療安全の確保等に向けて、医療分野の「雇用の質」向上のためにご活用下さい。

滋賀県医療勤務環境改善支援センター

開設場所：一般社団法人
滋賀県病院協会内
専用電話：077-500-3106
(10月15日より)
F A X : 525-5859
(協会兼用)

- 「雇用の質」とは…
- ①働き方・休み方改善
 - ②職員の健康支援
 - ③働きやすい環境整備
 - ④働きがいの向上 など



「大阪の私立病院視察の機会を得て」

第1回近畿病院団体連合会事務長会参加報告



近江八幡市立
総合医療センター
事務長 奥山 文市郎

点病院（放射線治療センター）、臨床研修指定病院（毎年6名採用）などの機能を保持されており、立地を活かし大阪市西部地区の都市型高度医療を担っている病院でした。

今年の4月に診療報酬の改定がありましたが、この病院においては地域包括ケア構築による自グループ内での医療連携や日帰り手術センター設置による手術期間短縮など、国の目指す方向を先取りされているものであり、患者の1日当たりの入院単価も6万5千円（循環器系の診療科なくして！）になることにも納得の感がありました。

大阪と滋賀では地域環境が異なるが、民間病院では経営者の判断で独自の医療ができることに羨望の眼差しが増幅した。私がいる自治体病院は市からの資金援助（繰り出し金）があり経営面では少し楽なもの、反面、議会・首長・市民から出されるニーズ対応や地方公務員たるが故のネガティブな制約を受けていることから、大胆な発想で病院運営が難しい一面もあります。今、40兆円

9月議会の開会日、議場で早く終わらないと今日は参加できないかなと思っていました。なんと午前中で終了し、大阪へ急ぎ足で駆け参りました。研修先は、JR大正駅近くの多根総合病院。この場所はプライベートで何回も行ったことのある京セラドームの隣で、なんと3階ではこのドームと病院が直接つながっていたことに驚きました。さて、この病院は創設者が戦争から帰還後、祖国復興を誓い地域貢献の

ために開設された民間病院であり、視察した総合病院は304床の急性期病院ですが、その他に眼科病院、回復期リハビリ病院、療養型病院、特養施設、老健施設等を周辺にもっており、いわゆる国が提唱する地域包括ケアネットワークを自らで築いている医療グループ。総合病院の特徴としては、救急医療（年間6500件搬送）、災害拠点病院（DMAT）、日帰り手術センター、眼科専門病院、がん診療拠

研修会のお知らせ

第3回 滋賀県女性医師交流会

日時：平成26年12月6日（土） 13:00～16:30
場所：ライズヴィル都賀山 5階 ロータス
参加者：女性・男性医師、病院関係者など100名
参加費：無料
交流会の内容：
テーマ「わたしたちが働き続けるために
～長時間労働の医療界に風穴を開ける～」
講演「私たちが働き続けるために～関西医科大学での取り組み～」
講師／関西医科大学附属枚方病院 病理診断科 診療教授 植村 芳子先生
「外科系女性医師として働き続ける
～母であり、医師であるために～」
講師／関西医科大学附属枚方病院 腎泌尿器外科 助教 滝澤 奈恵先生
報告「短時間勤務制度に関するアンケート結果～滋賀県の現状～」

第6回 研修医および若手医師のためのフォーラム

日時：平成26年12月13日（土） 15:00～18:00
場所：大津プリンスホテル コンベンションホール 淡海2階
対象者：前期・後期研修医、下記演題に関心のある若手医師、指導医等 約100名
参加費：無料
研修会等の内容：
講演／15:10～16:30
講師／大曲 貴夫 先生
(独立行政法人国立国際医療研究センター病院 国立感染症センター長・DCC科長・感染症内科医長 併任)
演題／「感染症診療のロジック」
講演／16:40～18:00
講師／金丸 吉昌 先生 (宮崎県美郷町地域包括医療局 総院長・今世六感塾 顧問)
演題／「今を 観る ～市民大応援団とともに～」

平成26年度第2回医事研究会 『未収金対策について』



医療法人 友仁会
友仁山崎病院 医事課長
杉本 剛

今年度は、大津赤十字病院、彦根市立病院、友仁山崎病院の3病院が医事研究会の役員を務めさせていただく事になりました。

一生懸命務めさせていただきますのでよろしくお願ひ致します。

8月28日(木)には「未収金対策について」をテーマとして、第2回の医事研究会をひこね燦パレスにて開催することができました。お忙しい中、31病院52名様にご参加いただきありがとうございました。

テーマである「未収金」については、どの病院様においても頭を悩ませる永遠の課題となつてい

ることに思います。今回、馬場合同司法書士事務所の馬場真作先生にご講演をいただき、未収金を防ぐための事前対策から内容証明郵便による時効の中断、少額訴訟や支払督促と言った法的手段に至るまで少しでも未収金を「作らない」ための「回収する」ためのヒントをわかりやすく教えていただきました。この内容を踏まえ、各病院様において日々の未収金対策の参考、活動に活かしていただければ幸いです。

各病院様におかれましては未収金にとまらせず、色々な問題を抱えておられることと思います。情報交換を行い連携していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひ致します。

Better Health, Brighter Future

武田薬品工業株式会社

受賞おめでとうございます

★平成26年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞

勳大臣表彰受賞
(平成26年9月9日)

(病院協会からの推薦者のみ)



済生会滋賀県病院 院長代
行・救命救急センター長
中村 隆志氏

★平成26年度救急医療功労者知事表彰受賞

(平成26年9月10日)



公立甲賀病院 副院長兼・
脳神経外科主任部長
渡邊 一良氏



守山市民病院
診療部長
前川 正毅氏

★産科医療功労者の厚生労働大臣表彰受賞

(平成26年9月30日)



医療法人真心会 南草津野
村病院 理事長
野村 哲哉氏

新任病院長の紹介

(平成26年8月4日付)

○医療法人友仁会 友仁山崎病院

(平成26年10月1日付)

○滋賀県立成人病センター

高橋 雅士氏
宮地 良樹氏
(順不同)



病院協会平成26年度第28回ソフトボール大会 市立長浜病院が連覇!!

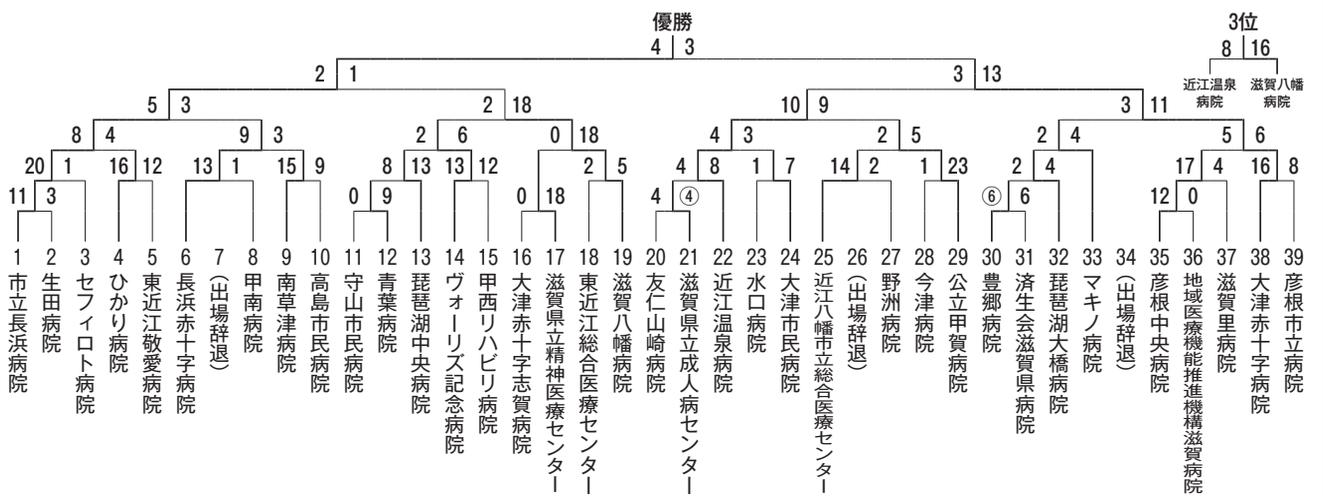
今年度の病院協会ソフトボール大会は、去る9月23日「秋分の日」に会場の高島市今津総合運動公園の8面を借り切って開催されました。

秋晴の下、早朝7時からのライン引きに始まり、8時30分から開会式、9時から始球式(片岡副会長)がとり行われ、39病院(内3病院出場辞退あり)の熱戦の火ぶたが切り落とされました。

1試合に必ず2名以上の女性が参加していること等一部病院協会ルールがあるものの、墨審は滋賀県ソフトボール協会にお願いし、公式ルールにのっとった試合運びで、結果は、7回戦を勝ち得た市立長浜病院が昨年度に続き優勝旗を手にされました。「準優勝は大津赤十字病院」、「第3位は滋賀八幡病院」、「第4位は近江温泉病院」でした。

選手の皆様、応援の皆様、関係者の皆様、ほんとうに有難うございました。

優勝 市立長浜病院 準優勝 大津赤十字病院
第3位 滋賀八幡病院 第4位 近江温泉病院



ICTは病院を活性化させる!

感染制御ネットワークだより

(34)

大津赤十字病院腎臓内科・ICT部会長 牧石 徹也

ICTの活動は病院を活性化させる。我々大津赤十字病院ICTはそう確信しています。実際、解決すべき問題が毎日と

Advertisement for Uriadeck (トピロキソスタット錠). It features the product name in large characters, dosage information (20mg, 40mg, 60mg), and contact information for Sankyo (三和化学研究所). The background shows a person's hands holding a large 'U' shape, possibly representing the drug's structure or a logo.